今週のみことば

「耐え忍んだ人たちは幸いである」

（エレミヤ書３３章１４節～１６節）　「見よ、その時代が来る―主のことば―。そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家に語ったいつくしみの約束を果たす。その日、その時、わたしはダビデのために義の若枝を芽生えさせる。彼はこの地に公正と義を行う。」(33:14,15)

（ヤコブの手紙５章１節～１１節）　「あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主が来られる時が近づいているからです。」(5:8)

今日のメッセージ要旨

◎私達には耐え忍ぶ必要があってもいつまで待たなければならないかとの不安を抱きやすいですね。一体何時まで待てば良いのでしょうか？

◎エレミヤ書33章は「ユダの再建とメシヤの来臨」のことが記され、エルサレム及び国土の復興を語り、ダビデ王朝と祭司制度の復興を語っています。

◎エレミヤは「監視の庭に閉じこめられていた時」主のみ言葉を聞いたのです。「監視の庭」とは近衛兵に監視されている場所で、王宮に隣接していたのです(32・1,12,37・18～21)。この33章に「主である方が仰せられる」(1,2,4,10,12,14,17,19,20,23,25)と11回記されています。当時ユダの民はバビロン捕囚の中におかれ、その現実に対して主が、回復の預言をされ、預言者と民に対し、約束を与え、慰めと励ましを与えられたのです。私たちも困難の中で語りかけて下さる主の言葉を聞きたいものです。天地万物を創造され、保ち、完成させて下さる神様が、「わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答える」と語られ、「この町の傷をいやして直し、彼らをいやして彼らに平安と真実を豊かに示す」、更に「彼らがわたしに犯したすべての咎から彼らを清め、彼らがわたしに犯し、わたしにそむいたすべての咎を許す」。また「この町は世界の国々の間で、わたしにとって喜びの名となり、栄誉となり栄えとなる」。尚も「その日が来る。いつくしみのみことばを成就する」と語られ、「わたしはダビデのために正義の若枝を芽生えさせる。ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、『主は私たちの正義』と名付けられる」と約束されたのです。この若枝こそキリストなのです。神様はその預言を成就されたのです。

◎ヤコブの手紙５章は、金持ちに対する警告、忍耐についての勧め、誓いについての教え、祈りについての勧め、迷い出た者を連れ戻すようにとの勧めをしています。本書は公同書簡（公同の教会に宛てた手紙、ヤコブ、ペテロ第一、第二、ヨハネ第一、第二、第三、ユダ）と呼ばれています。

◎著者ヤコブ(1:1)は主の兄弟ヤコブ(マタイ13:55、ガラテヤ1:19)と言われ、エルサレム教会の重要な指導者であった(使徒12:17、15:13、21:18、ガラテヤ2:9)。執筆場所はエルサレムで、執筆年代は45～48年であろうと言われている。

◎ヤコブは、金持ちの傲慢の罪を激しい口調で断罪しています(アモス6:1-8)。特に富の誘惑に陥ることの恐るべき結末を示し、警告を与えている(ルカ12:15-21)。地上の財産は恒久的なものではないのです(箴言27:24、マタイ6:19-20)。「終わりの日（主の再臨までの時)」(使徒2:17、テモテ②3:1、ペテロ②3:3)に備えて悔い改めることが必要なのです。ヤコブは高ぶる者を激しく責め、悔い改めを迫り、迫り来るさばきを警告したのです。そして最後の締め括りとして、さばきの主の来臨が近いことを覚え、今どうあるべきか、教会の中で苦しんでいる人、病んでいる人、罪を犯した人、信仰の道から迷い出た人についての具体的な勧告をしているのです。キリスト者は、主権者である主のさばきにゆだね、困難の中で堪え忍んでさばきの主の来られるのを待つことが必要なのです。私たちは金持ちの不当で横暴な仕打ちに対して自分で復習するのではなく、主のさばきの時を待ち望む忍耐が大切なのです(テサロニケ①4:15-17、ヘブル10:25、ペテロ①4:7、黙示録22:20)。特に「ヨブの忍耐」を示し、その結末を見て、主の来臨を待ち望むことを勧めているのです。